

岡田宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第 11 号

平成 2 年 12 月 吉日

発行 岡田宮社務所
北九州市八幡西区岡田町1番地
郵便番号 806

電話 621-1898

岡田神社二千六百五十年祭 記念事業奉祝祭



平成 2 年 10 月 19 日

拝啓 仲秋の候

ご挨拶

此度は二千六百五十年祭記念事業にご奉賛いたしました十月十九日には盛大な式年祭（竣工並びに秋まつり）を執り行う事が出来ました事に厚く御礼申し上げます。

遠い私達の御先祖は氏神さまと共に生き生かされてきました。岡田神社の二千数百年の歴史の中で数十度の御造営がなされその度ごとに立派な御神殿拝殿へと高められてきました。

鎌倉時代の御成敗式日に

神は人の敬によって威を増し

人は神の徳によって運を添ふ

という言葉があります。即ち神さまは氏子尊敬者の方々がその高く尊き御神徳を仰ぎ尊びますることによって益々その御神威を発揚され我々氏子崇敬者は神さまの御神徳をいたゞくことによつてしまわせになることが出来る

という意味のことばであります。

私たちの遠い御先祖の御靈が氏神さまに宿っています。そして鎮守の守り神さまとして私たち子孫の繁栄を見守つて頂いております。

氏神さまのやしろが立派になることによつて氏子の家々にも繁栄がおとづれるのでござります。どうぞ皆さま大神さまの御神徳をいたゞかれまして今後の弥栄を祈念し又心から深く感謝し御礼を申し上げます。有難うございました。

平成二年十月十九日

敬具

岡田神社宮司 波多野 直之
総代会々長 平成二年十月十九日

申す迄もなく 当神社は 古事記 日本書記等にも記載されている由緒深い神社でござります。過去に幾度か 戰乱 爭乱に巻き込まれ 社殿の一部が焼失したことがあったと伺っておりますが、その時々の関係者の不撓不屈の御努力により 修復 保持されまして御神威は 衰えることもなく 益々御神徳は広まり 多くの人々に崇敬されてきました

本日 ここに当岡田神社の社殿改修工事の完成に伴う奉祝祭が斎行されるに当たりまして 一言 御祝の御挨拶を申し上げます

御高承の通り 岡田神社は五十年毎の式年祭を迎え 昨年六月二十三日に二千六百五十年祭記念事業奉賛会が結成されました

そして 神社 氏子の皆様始め関係者の方々が数多くの協議 検討を重ねられましてその結果 主要な記念事業としましては 老朽化著しい社殿の全面的な改修を実施することが決定されました

かくして この記念事業を実施するための基金として氏子の皆様そして多くの崇敬者の皆様から貴重な淨財が寄せられ 工事も順調に推移し 本日 竣工の運びとなりましたことは誠に喜ばしく衷心よりお慶び申し上げます

申す迄もなく 当神社は 古事記 日本書記等にも記載されている由緒深い神社でござります。過去に幾度か 戰乱 爭乱に巻き込

みます。御神威は 衰えることもなく 益々御神威が高まり そして 一層の御神徳が広まっていきますことを祈念いたしまして 単ではございますが 岡田神社二千六百五十年祭記念事業完了の御祝いの御挨拶とさせていただきます

平成二年十月十九日

三菱化成株式会社黒崎工場
常務取締役
工場長 高橋敏郎

御祝辞

このようなことからも 今後も益々の御神徳の高揚をはかり 神社と氏子 崇敬者との繋がりを強め 郷土の氏神様としてお護りしていかなければなりません

斯様な事情を考慮されまして 関係の方々が心を一にして 本事業を完遂されましたことは 日頃より御加護をいただいております

私は 地元の企業におきましても御同慶に堪えません
年々 崇敬者 参拝者の方が増え 例大祭始め諸行事の際に御不便をおかけしていくことがあつたと伺つておりますが この度の改修工事によりまして 拝殿が広くなりまた雨漏りも修復されましたので 多くの方々がお喜びになられることが存じ上ります

大事業を完遂した今 岡田神社の新たな歴史の一ページが開かれました 今后 益々御神威が高まり そして 一層の御神徳が広まっていきますことを祈念いたしまして 年祭記念事業完了の御祝いの御挨拶とさせていただきます

記念事業
奉賛者「芳名」

伊井市一市磯和和石石石石課池池池池池家安安安安有有有有天安阿安安麻麻秋秋
藤手丸松瀬貝泉泉西永塚田田山本田田田尻上入東藤東藤西本本村田角羽部部部部生吉吉
嘉康仁國福シ芳高垣清句末高敏末イキ哲本ミ矩淳春小照正卓勝一八英
太ズス牛司ツヨシヨウチ子重
二郎香齋與一工猶雄治雄司路留澄稔通猛勝子三犬養生学子次生苗明敏郎進烈敬久道子正修二

沖岡岡大大大大大太仰大大大戒江江宇浦浦梅内内牛字浦植上上植岩岩人今今井井井和
本嶋崎山政前庭西塚田口木江江石石 嶋上川川崎山田島佐川山野谷木渕崎佐野田泉上上野
豊時利典興マシ晋津佐文五忠 重美伸 亥健良ハ讓ス昭久虎方守ヒ貞龜又昭貞良喜忠良初富憲
サゲ太矢キ二工才ゆ
和和治生中コ子郎子子ヨ幹毅夫弘一進子二男ヨ治子夫光次ル衛ん子友郎彦子親代夫春男男

鎌樺桃桃桃桃嘉金金金角角勝榎榎榎榎榎榎加加甲折小小小小尾小小小織小長奧神
野山島島島島島納本平子屋井田原原原原原原原川持來斐田保原村野立田田田田田田尾出
光嘉 ひ宣キ一敬孝宮獅民ゆシ定繁万治信重源忍艶政 吕重 元 裕ヒ秀武ス耕桂裕民行鐵
男堯勝え政子郎一光太雄子子り義生夫清一美吾子子義実光春章治仁登ニ子生雄エ郎子ニ子男夫

後小吉吉吉吉吉上郷黒黒黒熊熊神熊久草久清保木木木木木
金藤丸賀賀賀賀賀賀賀妻田木木木木手代谷田野我原都下下月
静雅幹治健一カ明政陽道道福業恒博梅文繁美哲利修
子博男元司夫工美喜一廣春操衛雄学春代男雄苑雄治治
川香内山嘉秀治子

坂本サツキ 坂坂坂酒坂酒酒坂作森近古古小小小小後後
下清嶋島柴柴茂佐佐佐貞作櫻佐々坂坂坂
川路水立田添原山田野野藤藤園木井間
典シ勝勝又幹伊藤善政継久栄正菜三利寺尾恵子
雄治エ美子夫平弟光治明次實英貢好店茂幸
八千代子太郎子山信修堂喜意男里雄店孟

中永中長井豊友富富戸置置徳東寺手坪津筒土土佃長中茶筑依田田玉珠田谷田田川田田
山木島江キ福野永永田澤根　測城町嶋井中井谷谷　札圓紫口丸丸利数畑内辺中中中中
奈重美国　秀弓三次正トモ　正健増政時レ降優真勝正勝信新種辛フサ子　伊津雄マ店郎則俊
津子出重美　万隆次代乃旗夫名利郎雄俊彦男一教老美敬一官里子降

原浜花花服旗波長橋萩萩萩芳野野野能賀西西西錦西仁成那名中中中中長
田賀山森の田部生野多川本岡原本木賀村山田田美山村村田住穂池光田須越村村園野
朝道ミ花栄ツ貞春正早慶盛史 暁久光真義安キ光辰義シズ子マサ子太郎治上道郎因一郎光
彰里子才田司子子日郎漸善藏里文考作博善雄二弟一征乃ミ白鹿昭子子太郎

福岡商銀八幡支店
フォトスタジオ金沢
平半平平秀口久久久橋換半原原原
野戸田川川岩島高松原門口田田田田
八重ムツ子元布慈子
三道義重イエニ
敏栄三郎好子
日出井城策
新兵衛喜多好子
正辰冷隨秀茶忠千輝貞曹國久政一発啓漢
俊郎資巳二
江井加海江井ラ
本村戸田城島崎井井原島崎
福藤藤藤藤藤藤藤藤藤藤福福福福
福藤藤藤藤藤藤藤藤藤福福福福

宮宮宮宮宮ミ南光溝溝溝水水三三御マ松松松松松松松松松松松松松增前前本本掘
木田島崎崎崎ヤ根部田口山上木河門ン山本本本山田島下岡尾尾尾尾尾尾浦井田田間田内
士隆早祐太力博潤春鶴政俊康ユ廣吉敏初民隼元シ保ト隆修伊彭弘智泰健サ藤
行雄苗介弘馬勲ラ枝水喜雄喜一大王志夫彦子子造治カ榮幸亨玉喜治繁豆明子之彦成進ト綱

山山山山山山山山八矢矢矢安安安安安樂や御諸森森森森村村村村村村村武向迎三宮宮
田田下下崎崎口口浦内尋作野次元增永高井師^き_{とり}矢藤川 山本本田上上上井草原 妊本本
泰ハユ政隆貢意妙健菊順太祥徵信周克克知浩 掛廣陽 正富末民八早康康恒 勝睦和信敬ヨ信
ツキ司子エ時郎司正子司治子一子式弘作巳巳子二有玄屋滿一満俊子夫子郎子雄生太郎清治三友行之エ子

渡渡和カラ米吉吉吉吉吉吉吉吉吉吉横横横山山山山山山山大山
見村坂部野和手
辺辺辺田丸ノ倉岡村村村原武武田田田田田吉川岡岡尾尾山本本本本整山
本正茂文隆容一正清卯マ輝マ正正ナ公川フ克篤登商良ミ正岱骨桂藤禮誠
之ササマスツツミミ廣茂喜江一室修男人人吉誠子大ミ敏和宏博エ俊彦組農子己子巨会三ネ繼輔院子精吹美誠治

町内会有志

岡田宮と厄除
やくよけ

厄年と称し、古くからその年は慎しむべき年とされているのは次の通りです。

男女ともかぞえ年で、一才、四才、七才、十才、十三才、十六才、十九才、二十二才、二十五才、二十八才、三十三才、三十四才、三十七才、四十才、四十一才、四十四才、四十九才、五十二才、五十五才、五十八才、六十一才が厄年です。

この間特に男の二十五才、四十二才、六十一才と女の十九才、三十三才、三十七才是大厄（本厄）といわれ、それぞれ各前年を前厄（厄入）、後年を後厄（厄晴）といわれています。

これらの歳を災いの多い厄年とするのはこの年齢が肉体的にも精神的にも大きく変化する年頃で、『人生の折り目』だからです。

厄年には古来災難が多く、障りのある行動や振る舞いは慎しむ年であるとされています。厄年の方は、障りある事柄をやめ、あるいは厄を転ずる手立てを講じます。

それが「厄ばらい」です。

厄年にあたる人は、災いを福に転ずるために厄除のお祓いをつけましょう。

北九州の古社である当岡田宮で毎日厄除の祈願祭を厳修致しております。

皆様方おそろいで御参拝下さいます様御案内申し上げます。

厄年(男)	厄年(女)	厄年(男)	厄年(女)
二十四才 前厄	三十二才 前厄	四十一才 前厄	二十六年生
二十五才 大厄	三十九才 大厄	四十二才 大厄	二十五年生
二十六才 後厄	四十才 後厄	四十三才 後厄	二十四年生
四十一才	六十一才 前厄	六十二才 大厄	七年生
四十二才	六十二才 後厄	六十三才	六年生
四十三才	六十三才	六十四才	五年生
四十四才	六十四才	六十五才	
四十五才	六十五才	六十六才	
四十六才	六十六才	六十七才	
四十七才	六十七才	六十八才	
四十八才	六十八才	六十九才	
四十九才	六十九才	七十才	
五十才	七十才	七十一才	
五十一才	七十一才	七十二才	
五十二才	七十二才	七十三才	
五十三才	七十三才	七十四才	
五十四才	七十四才	七十五才	
五十五才	七十五才	七十六才	
五十六才	七十六才	七十七才	
五十七才	七十七才	七十八才	
五十八才	七十八才	七十九才	
五十九才	七十九才	八十才	
六十才	八十才	八十一才	
六十一才	八十一才	八十二才	
六十二才	八十二才	三十二才	
六十三才	三十二才	三十三才	
六十四才	三十三才	三十四才	
六十五才	三十四才	三十六才	
六十六才	三十六才	三十七才	
六十七才	三十七才	三十八才	
六十八才	三十八才	三十九才	
六十九才	三十九才	四十才	
七十才	四十才	七十一才	
七十一才	七十一才	七十二才	
七十二才	七十二才	七十三才	
七十三才	七十三才	七十四才	
七十四才	七十四才	七十五才	
七十五才	七十五才	七十六才	
七十六才	七十六才	七十七才	
七十七才	七十七才	七十八才	
七十八才	七十八才	七十九才	
七十九才	七十九才	八十才	
八十才	八十才	八十一才	
八十一才	八十一才	三十二才	
三十二才	三十二才	三十三才	
三十三才	三十三才	三十四才	
三十四才	三十四才	三十六才	
三十五年生	三十五年生	三十六年生	
三十六年生	三十六年生	三十七年生	
三十七年生	三十七年生	三十八年生	
三十八年生	三十八年生	三十九年生	
三十九年生	三十九年生	四十才	
四十才	四十才	七十一才	
七十一才	七十一才	七十二才	
七十二才	七十二才	七十三才	
七十三才	七十三才	七十四才	
七十四才	七十四才	七十五才	
七十五才	七十五才	七十六才	
七十六才	七十六才	七十七才	
七十七才	七十七才	七十八才	
七十八才	七十八才	七十九才	
七十九才	七十九才	八十才	
八十才	八十才	八十一才	
八十一才	八十一才	三十二才	
三十二才	三十二才	三十三才	
三十三才	三十三才	三十四才	
三十四才	三十四才	三十六才	
三十五年生	三十五年生	三十六年生	
三十六年生	三十六年生	三七年生	
三七年生	三七年生	三八年生	
三八年生	三八年生	三九年生	
三九年生	三九年生	四十才	

平成三年の厄年

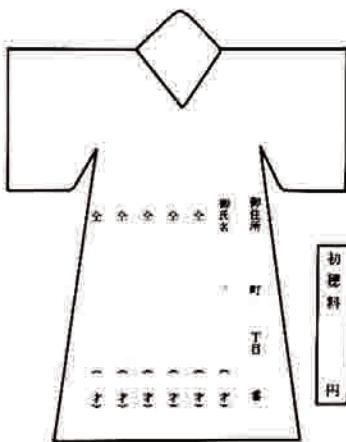
●厄除大祭
二月節分日

年末年始の行事案内

●大祓式 十二月三十一日

大祓とは、半年間の罪穢を祓い、清々しい心となつて各自の勤めに励み一家の幸福を増進せんとする意義深い行事です。

形代に住所、氏名、年令を書き身体をなで息を三度吹掛け初穂料（お恩召し）と共に袋に納めて十二月三十一日までに町内の神社総代が岡田宮社務所迄お届け下さい。



形代(裏)

岡田宮大祓式	七月二十九日午後六時
	十二月三十一日午後十一時

当日の式には奉用出来ない方々のため身代りとして「形代に任せ」方式と云ふことをとどめます。この年の年次大祓式は、十二月三十一日（一九九九年）までに町内の神社総代が、お恩召しの袋に納めて下さい。なお、この年のあつた家の方にはおさらなるため大祓を行って下さい。

岡田宮社務所 一九九九年六月二十一日

形代(表)

●歳旦祭 一月一日

新しい年をお祝いし、今年も良い年であるようにとお願いする神事、午前〇時より、恒例の「福餅」を先着順で五百個配ります。同時に地元青年会による神酒接待もあります。

●特別祈願祭 一月一日～七日

新しい年を迎えて、家内安全、職場安全、商売繁昌、厄除開運等の特別祈願を受け付けております。皆様おそろいでお参り下さい。

●成人奉告祭 一月十五日

新成人のお祓いをします。

●どんど焼祭 一月十五日

古くなつた、
火縄、門松等を

焼納する神事。

(1月15日 どんど焼まつり)
地元有志による
餅つき、餅まき、黒崎祇園太鼓、神酒接待、
せんざい等の諸行事が午前中に奉納されます。



神社なぜ問答

(その10)



問 伊勢の神宮その他でお出している御神札のことを「大麻」といいますがなぜ「大麻」というのかお尋ねします。

答 皆さんのが神社にお詣りして昇殿参拝したり、お子さんの初宮参りや七五三参りにござれたり、また神社の例祭などに参列された時に、お祓いを受けられたことがあると思います。神社の御社頭での神事に限らず、地鎮祭なども含め、神事、祭儀の時はいつもお祓い（修祓）があります。

この時、神職が祓詞（ハラエコトバ）を唱えたあと、榦の枝（あるいは木製の串）に紙垂と麻をつけたものをもって、左右左と振つてお祓いの作法をします。この祓えの具を「大麻」（オオヌサ）と称します。（祓麻ハラエヌサ、祓申ハラエグシ）こともあります。

さて、中世以来近世（江戸時代）まで、伊勢の神宮には「御師」と呼ばれる神職の人たちがおりました。この人々は伊勢の地を出でて全国に神宮の御神徳を広めて歩きました。当時の神道教化の最先端にいた人々といえましょう。御師は崇敬者を檀那と呼び、毎年一軒づつ訪問して廻りましたが、その折には、

檀那のために千度祓いとか万度祓いを修め御祈願をこめたしとして、祓串を納めた箱を持って来ました。

これがいわゆる「お祓い箱」です。

また、これとともに小さな祓出を剣先形に紙で包んだ「剣先祓い」も広く頒布されました。これは「お祓い大麻」とか「お祓いさん」とも呼ばれ、今日の神宮大麻の原形となりました。

明治時代になり、明治天皇の思し召しにより、全国に大麻が頒布されるようになり、ほぼ現在の形となりました。ですから、神宮の御神札を「大麻」と呼ぶのは、それが本来は、御師が、大祓を修したしの祓串であったからです。

例えば度会延佳をワタライノエンカと人の名前も音読みするように、しばしば神道用語も音読みする習慣があります。こうした古例によつて、タイマと呼ばれているものと思われます。神宮以外の神社の御神札を大麻と称することもありますが、この神宮の例に倣つた呼び方です。

郷土地名考 ⑪

十三塚 南王子町一番地。昔は一三の塚が南北に並んでいたという。十三塚の地名は全国に分布、近くでは水巻町猪熊にもあるが、県内で現存するのは小倉南区「堀越の十三塚」くらいである。十三塚は多くの場合伝承を伴っているが委細は不明。室町・江戸期に盛んであった十三仏信仰とも関係があるかもしれない。十三仏は大日如来・不動明王・薬師如来・釈迦如来・觀世音菩薩・文殊菩薩・勢至菩薩・普賢菩薩・阿弥陀如来・地藏菩薩・阿閦如来・弥勒菩薩・虚空藏菩薩である。

別当山遺跡 八幡工業高校の前の別当町にある。正確には大字市瀬に属する。小規模な中世の山城（砦）の跡で、麻生氏と関係があつ

たのではないかと考えられる。

帆柱四国靈場 帆柱四国は四国八十八ヶ所に傲い、明治三一年七月に創設された札打靈場である。一番鳴水糺迎堂に始まり、八八番山寺虚空蔵菩薩に終る。黒崎・上本町・枝光・戸畠区・七条・河内・田代・畑・香月・上津役・陣原・貞元・山寺と回る。番外共で一二〇数ヶ所の札所である。八八番札所は御手洗公園の一角、御手洗清水の上にある。札所としての本尊は薬師如来であるが、これは四国八十八番医王山大窪寺の本尊が薬師如来であるためで、堂の本尊は虚空蔵菩薩である。在来の寺堂を四国八十八ヶ所に擬しているため、札所としての本尊と実際の本尊は殆ど一致しない。

編集後記

●五十年に一度のご改築がやっと終わりました。ご奉賛ありがとうございました。

●好評の「神社なぜなぜ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

●祝祭日には国旗を掲げましょう。

●一日、十五日には神社に参りましょう。